

航空事故調査報告書
中国東方航空公司所属
エアバス・インダストリー式A300B4-600R型B2307
福岡県上空
平成8年1月20日

平成8年2月22日

航空事故調査委員会議決

委員長 竹内和之

委員 小林哲一

委員 川井力

委員 東口實

委員 相原康彦

1 航空事故調査の経過

1.1 航空事故の概要

中国東方航空公司所属エアバス・インダストリー式A300B4-600R型B2307は、平成8年1月20日13時35分（協定世界時1996年1月20日04時35分）同社定期516便として関西国際空港を離陸し、上海国際空港に向け飛行中、平成8年1月20日14時22分ごろ福岡県上空において、乗客1名が機内で死亡した。

1.2 航空事故調査の概要

1.2.1 調査組織

航空事故調査委員会は、平成8年1月20日、本事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

1.2.2 調査の実施時期

平成8年1月22日 事実調査

2 認定した事実

B2307は、平成8年1月20日13時35分（協定世界時1996年1月20日04時35分）、同社定期516便として乗組員16名及び乗客189名、計205名が搭乗し、上海国際空港に向けて関西国際空港を離陸した。

同機が上海国際空港に向けて飛行中、14時15分ごろ、乗客の男性（79歳）が、急に意識を失ったため、乗り合わせていた医師により、酸素吸入、心肺蘇生術が施されたが、14時22分ごろ、福岡県上空において、同医師により死亡が確認された。

同機は14時45分に関西国際空港に向けて引き返し、15時35分同空港に着陸した。

死亡した乗客の死体検案書には、同乗客は飛行中に虚血性心疾患による不整脈により死亡した旨が記述されている。

3 原因

本事故は、飛行中に乗客が不整脈により死亡したものと認められる。